

# 事務事業及び予算の執行実績 (令和3年度分)

政策管理局

# 目 次

## 政策管理局

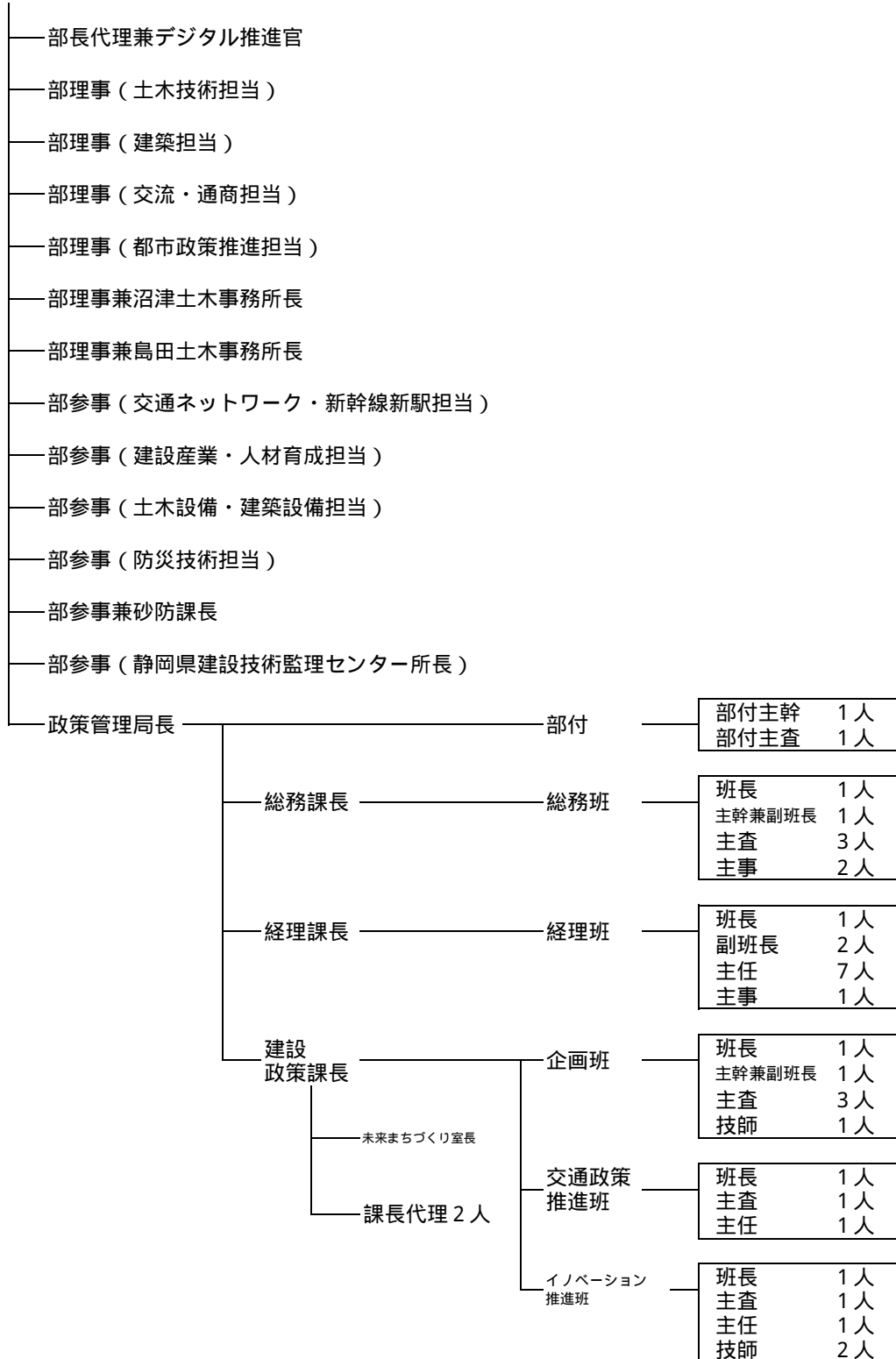
事務事業の概要	1
組織図	1
施策の体系（新ビジョン）、課別の事務又は事業の目的、計画及び実績（成果）、 評価、課題及び改善	2
総務課	2
経理課	2
建設政策課	2
職員配置調	10
過年度分収入未済額調	11
預金調	13
郵券等受払調	14
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	15
委託料に関する調	16
負担金支出調	18
基金の管理状況調	19
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	20
備品・図書調	21
主要備品調	22

# 事務事業の概要

## 【政策管理局】

### < 組織図 >

交通基盤部長



(その他会計年度任用職員等)

職名	人員
会計年度任用職員	3人

職員数計 55人

## 総務課

庁内他部局及び部内各局との連絡調整、部内の組織・人事に関する事務を実施した。

## 経理課

部内の予算及び決算、監査、財務に関する事務、庁内他部局及び部内各局との連絡調整を実施するとともに、会計実地検査への対応を行った。

## 建設政策課

### 1 施策の体系（新ビジョン）

施策の柱 交流を支える交通ネットワークの充実

— 目標 競争力の高い富士山静岡空港の実現に向けて空港の機能と利便性の向上

— 施策 — 競争力の高い富士山静岡空港の実現

— 取組 新幹線新駅実現に関わる調査・検討

### 2 課別の事務又は事業の目的、計画及び実績（成果）

#### （1）「新幹線新駅実現に向けた取組」

##### ア 新幹線新駅関連調査費

富士山静岡空港と直結する新幹線新駅は、空港の利便性を大きく向上させるとともに、首都圏・中部圏の空港を補完する機能や有事の際の防災拠点としての機能を強化に繋がるものであることから、その実現に向けた取組を推進している。

令和3年度は、これまでの検討成果を活用し、周辺地域の住民や関係者と対話を行い新駅に対する必要性の理解促進に努めるとともに、空港周辺で整備が進められている拠点施設と交通結節点間の交通ネットワークの強化策を検討すべく、市町や交通事業者等と意見交換を行った。

#### （2）「交通基盤部施策の企画・調整」

##### ア 交通基盤部企画調整費

14,248,335 円 県

〔 内 委託料 4,906,000 円 〕

交通基盤部の施策推進過程において、緊急に必要な事業を実施するため、企画調整費の執行管理を行った。

#### （3）「美しい“ふじのくに”インフラビジョンの推進」

富国有徳の美しい“ふじのくに”の実現に向けた社会インフラ整備の指針として、平成30年3月に策定した、「美しい“ふじのくに”インフラビジョン」について、策定以降のインフラを取り巻く社会情勢の変化を的確に捉えつつ、有識者等の民間委員と行政委員で構成する、

「美しい“ふじのくに” インフラビジョン推進会議（以下、推進会議という。）」での意見やパブリックコメントの結果等を踏まえ、令和4年3月、新たなビジョンを策定した。

(4) 「公共事業改革の推進」

ア 公共事業の事業評価

公共事業の効率性及びその実施過程の透明性の一層の向上を図るため、学識経験者等で構成する「静岡県事業評価監視委員会」の意見を踏まえ、事業採択後一定期間が経過した事業について評価を実施する再評価や、事業完了後に事業の効果・環境への影響等の確認を行い必要に応じて適切な改善措置等を検討する事後評価に取り組んでいる。

令和3年度に再評価を実施した26事業については、いずれも「継続」とした。

また、事後評価を実施した2事業については、いずれも「改善措置の必要性は特に認められない」とした。

(ア) 令和3年度の再評価結果(交通基盤部所管事業)

担当局	事業総数	対応方針		
		中止	見直し後 継続	継続
道路	2	0	0	2
河川砂防	17	0	0	17
港湾	4	0	0	4
都市	3	0	0	3
計	26	0	0	26

(イ) 令和3年度の事後評価結果(交通基盤部所管事業)

担当局	事業総数	対応方針		
		改善必要	再度評価	改善不要
道路	0	0	0	0
河川砂防	0	0	0	0
港湾	2	0	0	2
都市	0	0	0	0
計	2	0	0	2

注)

改善必要：改善措置の必要性あり

再度評価：再度事後評価を実施

改善不要：改善措置の必要性は特に認められない

(5) 「交通基盤部戦略的PRの推進」

交通基盤行政に対する県民の理解と信頼を得て、社会インフラ整備の着実な推進を図るため、本庁及び出先機関において積極的な広報に努めた。特に、建設産業の課題である担い手確保に向けて、産学官連携による“社会インフラの意義の周知”や“仕事のイメージ改善”を行う「静岡どぼくらぶ」を中心にして、様々な取組を実施している。

令和3年度は、児童や学生を対象に土木の重要性や仕事としての魅力を伝える「静岡どぼくらぶ」講座について、国、市、民間企業と連携し、建設現場体感見学会や出前講座などを計25回実施した。

また、社会インフラの写真を通じて県民に建設産業の“意義”や“魅力”を伝え、建設産業に従事する人達がその魅力を発信する機会を提供するため、(一社)静岡県建設業協会などとの共催によりフォトコンテストを開催した。

さらに、各所属の広報担当者と若手有志で構成する戦略広報チームにおけるミーティングや研修を通じ、各所属における情報共有や新たな広報に取り組み、全職員の広報に対する意識改革・スキルアップを図った。

(6) 「県計画と部施策との調整」

県の新ビジョン「富国有徳の美しい“ふじのくに”の人づくり・富づくり」や「美しい“ふじのくに” まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進捗評価や県の新ビジョン後期アクションプランの策定等に当たり、政策推進局等と調整を進めた。

(7) 「中央新幹線整備に関する取組」

平成27年6月に設立した静岡県中央新幹線対策本部において、中央新幹線の整備が安全かつ円滑に行われるよう、関係部局と連携し対応した。

(8) 「生産性向上に向けた取組」

ア ICT活用工事推進事業費 4,961,000円 県  
〔内 委託料 4,961,000円〕

交通基盤部では、国土交通省のi-Construction推進の方針を受け、労働者の減少を上回る生産性向上の実現と、希望が持てる建設現場の実現による担い手の確保に向けて、「ICT活用工事」の積極的な導入を図るため、「建設現場における生産性向上推進会議」を設立し、全国に先駆けて「ICT活用工事の試行方針」を定めた。

また、県内で発注される公共工事の9割を占める自治体発注の中小規模工事への普及を図るため、各建設系の協会や専門家に国土交通省、国土技術総合研究所、県内市町を加えた「ふじのくにi-Construction推進支援協議会」を設立し、関係者総掛かりで取り組む体制を構築して推進を図っている。

令和3年度は、これまでに行ってきたICT活用工事の普及促進の取組により、ICT活用工事の実施企業数が増大するなど、普及が図られている状況である。

業務名	委託先	業務期間
ICT活用工事の普及促進に関する検討業務委託	(一社)日本建設機械施工協会	R3.5.21～R4.3.15

(9) 「スマートガーデンカントリー“ふじのくに”モデル事業の推進」

ア スマートガーデンカントリー“ふじのくに”推進事業費 314,743,000円 国1/2  
〔内 委託料 314,743,000円〕

人口減少が進む中、災害の激甚化や担い手不足など深刻化する課題に対応するため、先端技術を活用し生産性向上や新たな価値の創造をしていく必要がある。

そこで、東部・伊豆地域をモデルに3次元点群データを災害復旧や観光等の様々な分野へ活用し、安全・安心で利便性が高く快適に暮らせる「スマートガーデンカントリー“ふじのくに”」の形成を目指している。

令和3年度は、航空レーザ計測(950km<sup>2</sup>)のデータ取得ほか、インフラ管理効率化に向けた取組を実施した。

区 分	業務概要	事業費 (千円)
データ取得	伊豆半島東部地域(950 km <sup>2</sup> )の航空測量	304,788
新たな取組(データ活用)	インフラ管理効率化	9,955
合 計		314,743

(ア) データ取得

業務名	委託先	業務期間
静岡県東部航空レーザ測量業務委託	朝日航洋(株)静岡支店	R3.7.21~R4.3.15

(イ) 新たな取組(データ活用)

業務名	委託先	業務期間
ICT活用の環境整備に関する検証業務委託	(一社)日本建設機械施工協会	R3.11.19~R4.3.15

(10) 「公共交通への自動運転導入の取組」

ア EV・自動運転化等技術革新対応促進事業費 56,693,930円 国1/2  
〔内 委託料 56,000,000円〕

路線バス利用者の減少傾向が続く中、県内のバス事業者においては、人件費等の費用の増大や運転手不足等の問題から、事業者だけで路線を維持することが困難な状況である。

そこで、課題解決のための有効な手段と考える公共交通への自動運転の導入のため、実用化に向けた取組を産学官連携で進めている。

令和3年度は、小笠山総合運動公園内及び松崎町において自動走行の実証実験を実施した。

業務名	委託先	業務期間
高精度3次元地図データを活用した自動走行実証事業業務委託	東急(株)	R3.6.29~R4.3.25

(11) 「公共事業のICT化の推進」

ア 静岡県地理情報システム(GIS) 27,984,000円 県  
〔内 委託料 27,984,000円〕

建設事務の正確性の向上、効率化・迅速化を図るため開発された建設事務総合システムのうち、位置に関わる諸情報をデータベース化して共有する静岡県地理情報システム(GIS)を運用している。

令和3年度は、庁内版GIS及び公開版GISの保守管理を実施した。

業務名	委託先	業務期間
静岡県地理情報システム保守管理業務委託	(株)インフォマティクス	R3.4.1~R4.3.31

### 3 評価、課題及び改善

#### (1) 評価

##### ア 「新幹線新駅実現に向けた取組」

JR東海は、新駅設置に対して否定的な姿勢を崩しておらず、現状で新たな進展は見込めない状況であるが、リニア開通後、東海道新幹線の運行ダイヤに余裕が生まれ新駅実現の可能性が高まることを想定し、周辺地域の住民や関係者と対話を行い新駅に対する必要性の理解促進に努めるとともに、空港周辺で整備が進められている拠点施設と交通結節点間の交通ネットワークの強化策を検討すべく、市町や交通事業者等と意見交換を行った。

##### イ 「交通基盤部施策の企画・調整」

県民ニーズにあった社会基盤の整備を効果的に進めるため、連絡調整を図りながら部内施策の企画・調整を行っている。

##### ウ 「美しい“ふじのくに”インフラビジョンの推進」

推進会議では、安全・安心なインフラ整備を非常に熱心に取り組んできているなど、全体的に取組に対する高い評価をいただいております、効果的、効率的な社会資本整備を進めている。

##### エ 「公共事業改革の推進」

全ての再評価事業を対象に意見募集（パブコメ）を実施するなど、広く県民の意見を反映し、適切に事業評価を実施している。

##### オ 「交通基盤部戦略的PRの推進」

「静岡どぼくらぶ」講座には、計1,686人の参加があり、実施後のアンケートからも、建設産業に興味をわいたという意見が概ね過半数を占めている。

フォトコンテストには、一般、学生、建設産業から計273件の応募があり、令和2年度に比べ応募数が増加した。共催した協会からも、社会インフラに目をむけてもらう良い機会であるとの評価を受けており、引き続きの開催に期待が寄せられている。また、入賞作品を活用したポスターカレンダー1,050部を県内全ての小中高等学校、大学へ配布することで、建設産業や社会インフラのPRにつなげた。

##### カ 「県計画と部施策との調整」

県の新ビジョン等の目標達成に向けて、着実に事業を推進している。

##### キ 「中央新幹線整備に関する取組」

自然豊かな南アルプスの環境保全や大井川の水資源の確保を図りつつ、中央新幹線整備が安全かつ円滑に行われるよう、関係部局や利水関係者等と連携して対応した。



ク 「生産性向上に向けた取組」

令和3年度は、土工137件（ICT導入型121件、受注者希望型16件）、舗装工3件の計140件のICT活用工事を実施、工事を実施した企業数は累計で211社（前年度から32社増加）となった。

ケ 「スマートガーデンカントリー“ふじのくに”モデル事業の推進」

3次元点群データの取得は計画通り着実に進捗し、県内ほぼ全域において取得が完了した。取得したデータはオープンデータ化しており、災害対応やビジネス創出など様々な用途で活用されていることが評価され、令和3年度の全国知事会の先進政策大賞を受賞した。

コ 「公共交通への自動運転導入の取組」

小笠山総合運動公園内及び松崎町の公道で自動運転の実証実験を行い、関係企業の技術開発を促進し、あわせて自動運転についての県民の理解を深めることができた。

地域特性の異なる県内3市（伊東市、沼津市、掛川市）においても、実証実験を実施する予定であったが、事前の公道審査において遠隔操舵時に歩行者と自動運転車両が接触する事案が発生したため、伊東市、沼津市、掛川市での実施を見合わせた。

サ 「公共事業のICT化の推進」

静岡県地理情報システム（GIS）は、平成26年度から全庁の統合型として運用が開始され、職員の事務軽減と共に、令和3年度は月間で約59,000アクセス（公開版GIS）となっており、県民サービスの向上に寄与した。

（2）課題

ア 「新幹線新駅実現に向けた取組」

地域住民の新駅に対する理解拡大と懸念解消に努めることに加え、空港周辺の魅力をさらに高めることが重要である。

イ 「交通基盤部施策の企画・調整」

特になし

ウ 「美しい“ふじのくに”インフラビジョンの推進」

本ビジョンに基づき、施策を引き続き効果的、効率的に実施していくことに加え、社会情勢の変化を的確にとらえつつ、取組の方向性や成果を県民に分かりやすく示すことが重要である。

エ 「公共事業改革の推進」

再評価及び事後評価について、事業効果を幅広く示していくことが重要である。

オ 「交通基盤部戦略的PRの推進」

戦略的な広報の取組を、継続的に実施していくことが重要である。

カ 「県計画と部施策との調整」

県の新ビジョン等の目標達成に向け、引き続き、着実に事業を推進することが重要である。

キ 「中央新幹線整備に関する取組」

自然豊かな南アルプスの環境保全や大井川の水資源の確保を図りつつ、中央新幹線整備が安全かつ円滑に行われる必要がある。

ク 「生産性向上に向けた取組」

ICT活用工事の実施企業数は着実に増加しているが、建設業の担い手確保とともに建設現場の省力化、省人化のためには、さらなる普及促進を図る必要がある。

ケ 「スマートガーデンカントリー“ふじのくに”モデル事業の推進」

県内ほぼ全域において、3次元点群データの取得が完了したことから、今後も災害対応や景観検討、観光など様々な分野への、さらなる活用に取り組む必要がある。

コ 「公共交通への自動運転導入の取組」

公道を走行する実証実験の実施にあたっては、歩行者と自動運転車両との接触事案の原因究明を行い、そのことを踏まえた上で常に安全に走行できるよう、車両やシステムなどの見直しを行う必要がある。

サ 「公共事業のICT化の推進」

静岡県地理情報システム(GIS)を、様々な行政分野における住民サービスの向上や、業務効率化に活用するには、ニーズを把握するとともに、常に誰でも使用できることが必要となる。

(3) 改善

ア 「新幹線新駅実現に向けた取組」

引き続き周辺地域の住民や関係者との意見交換を継続するとともに、空港周辺で整備が進められている拠点施設と交通結節点間の交通ネットワーク強化などに関係者と連携して取り組んでいく。

イ 「交通基盤部施策の企画・調整」

今後も他の部局との連絡調整を図りながら、部内施策の企画・調整を行っていく。

ウ 「美しい“ふじのくに”インフラビジョンの推進」

「自然災害の激甚化・頻発化、切迫」、「デジタル革命の加速」、「グリーン社会の実現に向けた動き」などのインフラを取り巻く社会情勢の大きな変化を的確に捉え、令和4年3月、新たなビジョンを策定した。

今後は、本ビジョンが示す取組の方向性に基づき施策を推進するとともに、社会インフラ整備に関する県民向け広報もあわせて行っていく。

エ 「公共事業改革の推進」

事業評価においては、県民に事業の効果をわかりやすく示すため、ストック効果を記載するなど、公共事業の事業評価の充実に努めていく。

オ 「交通基盤部戦略的PRの推進」

引き続き、広く県民に建設産業の魅力を伝えるため、「静岡どぼくらぶ」を活用した取組を通して、戦略的かつ積極的な広報に取り組んでいく。

カ 「県計画と部施策との調整」

県の新ビジョン後期アクションプラン等の目標達成に向けて、着実に事業を推進するとともに、引き続き、政策推進局等と調整を図っていく。

キ 「中央新幹線整備に関する取組」

引き続き、自然豊かな南アルプスの環境保全や大井川の水資源の確保を図りつつ、中央新幹線整備が安全かつ円滑に行われるよう、関係部局や利水関係者等と連携しながら適切に対応していく。

ク 「生産性向上に向けた取組」

引き続き、研修会の実施や、国、県、市町、建設系の各協会などで構成する「ふじのくに i-Construction 推進支援協議会」の活動を通じて、現場支援を行っていく。

ケ 「スマートガーデンカントリー“ふじのくに”モデル事業の推進」

引き続き、3次元点群データの多方面での利活用が進むよう、積極的な広報活動を展開し、産学官の連携によるオープンイノベーションを推進する。

コ 「公共交通への自動運転導入の取組」

実証実験の再開に向けて、関係機関と協議、システム、運用面の再発防止策を講じて、引き続き、過疎地域や都市部など環境の異なる地域において実験を行い、実用化に当たって必要となる諸条件を検証していく。

サ 「公共事業のICT化の推進」

引き続き、静岡県地理情報システム(GIS)を適切にシステム改修及び保守管理を行い、オープンデータの推進により、公共のデータを二次利用可能な形式で積極的に公開し、社会的な課題の解決や新たなサービスの創出を図っていく。

## 職員配置調

(令和4年4月1日現在)

区 分		政策管理局	総務課	経理課
配置職員	職員(事務)	3	8	10
	職員(技術)	14(2)		2
	会計年度任用職員		(1)	(1)
	臨時的任用職員			
	兼務職員			(2)
計		17(2)	8(1)	12(3)

区 分		建設政策課	計
配置職員	職員(事務)	1	22
	職員(技術)	17	33(2)
	会計年度任用職員	(1)	(3)
	臨時的任用職員		
	兼務職員	(14)	(16)
計		18(15)	55(21)

(注)

- 1 部長、部長代理、部理事、部参事、局長、部付は、局の区分に記載。
- 2 派遣職員、兼務職員、会計年度任用職員は、( )内に外書きで記載。

## 過年度分収入未済額調

(一般会計)

(令和4年5月31日現在)

区分 年度	道路占用料 (出先分)		河川占用料 (出先分)		港湾使用料 (出先分)		延滞金 (出先分)		雑収 (出先分)	
	件数	収入未済額	件数	収入未済額	件数	収入未済額	件数	収入未済額	件数	収入未済額
27年度以前A	3	376,100	15	435,000	2	6,212	9	459,700	7	4,361,237
28年度	2	391,500	3	72,200	2	185,252	4	70,175	1	10,798
29年度	3	410,254	6	84,500	-	-	3	238,025	1	1,997,154
30年度	2	340,600	5	74,000	-	-	6	268,500	2	3,661,529
令和元年度	10	34,220	10	191,900	2	50,000	4	362,900	3	2,460,400
令和2年度	9	36,640	9	277,200	1	58,000	10	1,127,981	4	968,690
計	29	1,589,314	48	1,134,800	7	299,464	36	2,527,281	18	13,459,808
摘要①(滞納処 分の停止等の理 由)	-		生活困窮のため		-		生活困窮のため		-	
摘要②(不納欠 損処分の件数、 額)	6件	25,501円	4件	15,300円	-		1件	316,888円	1件	73,969円
摘要③(A欄の うち、1件10万 円以上の内訳)	1件	310,500円	-		-		-		5件	4,283,053円

区分 年度					-		-		-	
	件数	収入未済額	件数	収入未済額	件数	収入未済額	件数	収入未済額	件数	収入未済額
27年度以前A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
29年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
令和元年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
令和2年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
摘要①(滞納処 分の停止等の理 由)	-		-		-		-		-	
摘要②(不納欠 損処分の件数、 額)	-		-		-		-		-	
摘要③(A欄の うち、1件10万 円以上の内訳)	-		-		-		-		-	

## 過年度分収入未済額調

(清水港等港湾整備事業特別会計)

(令和4年5月31日現在)

区分 年度	港湾使用料 (出先分)		雑収 (出先分)		-		-		-	
	件数	収入未済額	件数	収入未済額	件数	収入未済額	件数	収入未済額	件数	収入未済額
	件	円	件	円	件	円	件	円	件	円
27年度以前A	6	195,150	1	4,300	-	-	-	-	-	-
28年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
29年度	2	187,070	-	-	-	-	-	-	-	-
30年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
令和元年度	2	339,536	2	112,600	-	-	-	-	-	-
令和2年度	2	263,813	1	12,100	-	-	-	-	-	-
計	12	985,569	4	129,000	-	-	-	-	-	-
摘要①(滞納処 分の停止等の理 由)		-		-		-		-		-
摘要②(不納欠 損処分の件数、 額)	2件	137,700円		-		-		-		-
摘要③(A欄の うち、1件10万 円以上の内訳)		-		-		-		-		-

(流域下水道事業会計)

(令和4年5月31日現在)

区分 年度	-		-		-		-		-	
	件数	収入未済額	件数	収入未済額	件数	収入未済額	件数	収入未済額	件数	収入未済額
	件	円	件	円	件	円	件	円	件	円
27年度以前A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
29年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
令和元年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
令和2年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
摘要①(滞納処 分の停止等の理 由)		-		-		-		-		-
摘要②(不納欠 損処分の件数、 額)		-		-		-		-		-
摘要③(A欄の うち、1件10万 円以上の内訳)		-		-		-		-		-

## 預金調

(令和4年3月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高円	摘要
静岡銀行県庁支店	無利息型 普通預金	0301016	交通基盤部 政策管理局 資金前渡者 経理課長 蕪木宏一	40,000	部長交際費(継続 的資金前渡)等
静岡銀行県庁支店	無利息型 普通預金	0300999	(自振口) 交通基盤部 政策管理局 資金前渡者 経理課長 蕪木宏一	0	公共料金等支払用
残高合計				40,000	

## 郵券等受払調

(令和4年3月31日現在)

(単位：枚、円)

区分	種類	令和2年度						令和3年度						差引現在高	摘要	
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出				
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額			
郵券	63円券	0	0	0	0	0	0	0	0	2	126	2	126	0	0	お年玉 年賀はがき 当選分
	84円券	0	0	1	84	1	84	0	0	2	168	2	168	0	0	
	500円券	0	0	25	12,500	25	12,500	0	0	29	14,500	29	14,500	0	0	
	100円券	0	0	2	200	2	200	0	0	4	400	4	400	0	0	
	94円券	/	/	/	/	/	/	0	0	1	94	1	94	0	0	
	2円券	0	0	2	4	2	4	0	0	/	/	/	/	/	/	
	1円券	0	0	1	1	1	1	1	0	/	/	/	/	/	/	
	計	/	0	/	12,789	/	12,789	/	0	/	15,288	/	15,288	/	0	
図書券	10000円券	0	0	6	60,000	6	60,000	0	0	6	60,000	6	60,000	0	0	フォトコン テスト賞品
	計	/	0	/	60,000	/	60,000	/	0	/	60,000	/	60,000	/	0	
タクシーチケット	静岡市 タクシー 事業協同 組合	0	/	210	/	11 14 185	/	0	/	210	/	26 64 120	/	0	/	緊急事 務連絡 等用
	計	0	/	210	/	210	/	0	/	210	/	210	/	0	/	
その他	JCBギフト カード 1000円券	0	0	120	120,000	120	120,000	0	0	120	120,000	120	120,000	0	0	フォトコン テスト賞品
	計	/	0	/	120,000	/	120,000	/	0	/	120,000	/	120,000	/	0	

タクシーチケットの払出欄は、上段に使用分、中段に廃棄分、下段に返納分を記載。



委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額(円)			
					令和2年度	令和3年度		
								左のうち 前年度から の繰越額分
(12) 委託料	1 一般会計	3 危機管理費	1 危機管理費	2 危機管理費		2,185,000		
			5 暮らし・環境費	3 建築住宅費	2 建築安全推進費		1,786,000	
				4 環境費	1 環境政策費		600,000	
		6 ｽｰﾂ・ 文化観光費	3 文化費	2 文化財費		1,634,000		
			8 経済産業費	2 産業革新費	1 産業革新費		56,000,000	
				6 農地費	1 農地費		2,228,000	
		9 交通基盤費	1 交通基盤管理費	2 交通基盤企画費		319,649,000		
			4 道路費	1 道路橋りょう 維持管理費		286,000		
				2 道路橋りょう 新設改良費		19,902,000		
				5 河川砂防費	2 河川改良費		3,476,000	
			3 海岸費		572,000			
			4 砂防費		2,228,000			
		7 都市費	3 市街地整備費		2,228,000			
計					292,469,200	412,774,000	-	
(14) 工事 請負費								
計					410,520	-	-	
(16) 公有財産 購入費								
計					-	-	-	
(17) 備品 購入費	1 一般会計	9 交通基盤費	1 交通基盤管理費	2 交通基盤企画費		805,034		
			4 道路費	2 道路橋りょう 新設改良費		3,022,800		
			5 河川砂防費	2 河川改良費		3,797,866		
				4 砂防費		3,633,300		
			6 港湾費	3 港湾整備費		1,083,665		
			7 都市費	3 市街地整備費		1,548,800		
			5 公園緑地費		1,900,291			
計					13,002,994	15,791,756	-	
(18) 負担金、 補助及 び交付金	1 一般会計	9 交通基盤費	1 交通基盤管理費	1 交通基盤総務費		375,000		
計					417,500	375,000	-	
(21) 補償、補填 及び賠償金								
計					-	-	-	

委託料に

(建設政策課)

整理 番号	委託業務名	受託者	当 初 設計金額	契約金額		
				当初額	変更増減額	計
			円	円	円	円
1	(事務関係) 令和3年度 土木事務所サーバメンテ ナンス業務委託	(有)アーク	594,000	594,000	0	594,000
2	令和3年度土木事務所サ ーバ移行・メンテナンス 業務委託	(有)アーク	979,000	979,000	0	979,000
3	令和3年度 復興事前準備に係る支援 検討業務委託	日本工営(株) 静岡事務所	1,991,000	1,991,000	0	1,991,000
4	令和3年度 美しい“ふじのくに”イ ンフラビジョン広報資料 作成業務委託	(株)トムス	990,000	990,000	0	990,000
5	令和3年度 三島停車線インフラ維持 管理における3次元デー タ官民連携検討業務委託	静岡コンサルタ ント(株)	1,991,000	1,925,000	0	1,925,000
6	令和3年度 ICT活用工事の普及促 進に関する検討業務委託	(一社)日本建 設機械施工協会	4,961,000	4,961,000	0	4,961,000
7	令和3年度 ICT活用の環境整備に 関する検証業務委託	(一社)日本建 設機械施工協会	9,955,000	9,955,000	0	9,955,000
8	令和3年度 静岡県東部航空レーザ測 量業務委託	朝日航洋(株) 静岡支店	304,997,000	304,700,000	88,000	304,788,000
9	令和3年度 高精度3次元地図デー タを活用した自動走行実証 事業業務委託	東急(株)	56,000,000	56,000,000	0	56,000,000
10	令和3年度 静岡県地理情報システム 保守管理業務委託	(株)インフォマ ティクス	24,278,430	24,200,000	3,784,000	27,984,000
11	令和3年度 3次元データ移行業務 委託	(一社)社会基 盤情報流通推進 協議会	2,607,000	2,607,000	0	2,607,000
	事務関係 計	11件	409,343,430	408,902,000	3,872,000	412,774,000
	合 計	11件	409,343,430	408,902,000	3,872,000	412,774,000
	政策管理局 計	11件	409,343,430	408,902,000	3,872,000	412,774,000

関する調

(令和3年度)

(令和4年3月31日現在)

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
随契	R3.4.1 ~ R4.3.31	R4.4.28	円 594,000	「土木事務所サーバ」の保守点検・管理業務	随契1号 (少額)
随契	R3.8.31 ~ R3.11.1	R3.12.6	979,000	「土木事務所サーバ」のOSアップデート業務	随契1号 (少額)
随契	R3.8.5 ~ R4.3.15	R4.4.13	1,991,000	市町の事前都市復興計画の策定を支援する資料案を作成	随契2号 (不適)
随契	R3.7.28 ~ R4.3.23	R4.4.13	990,000	「美しい“ふじのくに”インフラビジョン」を広報するための資料作成	随契1号 (少額)
指名	R3.8.24 ~ R4.3.15	R4.4.21	1,925,000	3次元データ作成、3次元データの活用の検証	
随契	R3.5.21 ~ R4.3.15	R4.4.21	4,961,000	ICT活用工事に関する現場検証、県独自の基準・要領類の検討業務	随契2号 (不適)
随契	R3.11.19 ~ R4.3.15	R4.4.21	9,955,000	ICTの全面的な活用の推進に際して必要となる環境を整備(GNSS観測局の設置)し効果検証を行う業務	随契2号 (不適)
随契	R3.7.21 ~ R4.3.15	R4.4.20	304,788,000	インフラ管理効率化や災害復旧等へ3次元点群データを活用するための高密度航空レーザ測量業務	随契2号 (不適)
随契	R3.6.29 ~ R4.3.25	R4.4.20	56,000,000	3次元点群データを活用した自動走行等の実証実験業務	随契2号 (不適)
随契	R3.4.1 ~ R4.3.31	R4.4.28	27,984,000	地理情報システム(GIS)の保守管理	随契2号 (不適)
随契	R3.12.21 ~ R4.3.14	R4.3.31	2,607,000	閉鎖する旧サーバから新データベースへのデータ移行業務	随契2号 (不適)
			412,774,000		
			412,774,000		
			412,774,000		

## 負担金支出調

(令和3年度)  
(令和4年5月31日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	地方職員共済組合事務費負担金	静岡県道路公社	地方公務員等共済組合法、同法施行令	道路公社職員に係る地方職員共済組合の事務に要する経費	287,500 <small>円</small>	R4.4.26
2	地方職員共済組合事務費負担金	静岡県土地開発公社		土地開発公社職員に係る地方職員共済組合の事務に要する経費	87,500	R4.4.26
計		2 件			375,000	

## 基金の管理状況調

静岡県津波対策施設等整備基金

(令和3年度現在)

保管区分	令和2年度末 現在高	令和3年度中増減高			令和3年度末 現在高	摘要
		増	減	差引増減高		
定期預金	円 1,244,235,676	円 2,046,859	円 100,700,000	円 98,653,141	円 1,145,582,535	・新規積立 R 3 . 10 . 29 280,000 R 4 . 3 . 31 1,255,000 R 4 . 5 . 31 130,000  ・利息積立 R 4 . 3 . 31 381,859  ・取崩し R 4 . 5 . 31 100,700,000
計	1,244,235,676	2,046,859	100,700,000	98,653,141	1,145,582,535	

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和3年度)

(令和4年3月31日現在)

区分	事業名又は契約名	内容	契約額	(契約額の年度別内訳)							
				2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
債務負担 行為											
長期継続 契約	令和2年度 静岡県地理情報システム 機器賃借(ファイルサーバ)	G I S 用フアイル サーバ一式 (契約日) 2 . 11 . 12	4,547,400	円 151,580	円 909,480	円 909,480	円 909,480	円 909,480	円 909,480	円 757,900	円

# 備品・図書調

(令和3年度)

(交通基盤部政策管理局)

(令和4年3月31日現在)

区 分	令和3年 3月31日現在	増		減		令和4年 3月31日現在
	数 量	数 量	購入価格	数 量	売却価格	数 量
1 1 机類	1	( )	円 0	( )	円 0	1
1 2 台類	1	( )	0	( )	0	1
1 3 いす類	3	( )	0	( )	0	3
1 4 収納保管庫類	2	( )	0	( )	0	2
1 7 書類整理器具類	1	( )	0	( )	0	1
1 10 印判類	8	( )	0	( 1)	0	7
1 15 電話器類	22	( )	0	( )	0	22
1 18 パーテーション	1	( )	0	( )	0	1
2 1 情報処理機器類	5	( 1)	597,344	( )	0	8
2 2 情報伝達機器類	2	( )	0	( )	0	2
3 - 1 撮影機器類	2	( )	0	( )	0	2
3 - 3 視覚用再生等機器類	1	( )	207,690	( )	0	3
8 - 1 車両類	0	( )	14,986,722	( 15)	0	0
12 - 1 雑機器	1	( )	0	( )	0	1
50 1 図書	11	( )	0	( )	0	11
計	61	( 1)	15,791,756	( 16)	0	65

管理換え、分類換え及び区分換えについては、「増減数量」欄の( )欄に再掲する。

## 主 要 備 品 調

(交通基盤部政策管理局)

(令和4年3月31日現在)

整理 番号	区 分		品名・規格	利用状況	購入年月	購入金額
	大・中	小				
1	2 - 1	ノートパソコン	ノートパソコン	毎日 建設政策課	R 3. 3	円 374,000
2	1 - 18	ローパーテー ション	ローパーテーション 1200×180	毎日 収用委員会事務局	H17. 6	367,464
3	2 - 1	ノートパソコン	ノートパソコン	イベント、会議用	R 4. 3	298,672
4	2 - 1	ノートパソコン	ノートパソコン	イベント、会議用	R 4. 3	298,672
5	1 1	平机 会議用机	オカムラ 3600*1050*700	毎日 部長室	S60. 3	278,000
6	3 - 3	プロジェクター	プロジェクター 仕様書のとおり	イベント、会議用	R 3. 3	209,000
7	2 2	放送装置一式	TOATZ15A、TWT750	イベント、会議用	H 4. 3	204,200